



深夜4時

私は暗い気分で深夜に目が覚める。

「あれ…夢…？」

クラスメイトに犯されて母乳が吹き出し吸われるという
忘れたくても忘れないような最悪の夢を見ていた。

はあ…気分わるい…でも夢でよかった…

気分転換に神社の外へ出ると、なぜか無意識に
裏小屋へ入ってしまった。

「あれ…なんで…」

そこには種山くんがいた。
下腹部からは、熱さがゆっくりと強くなる…。

「え、いったいなにが起こって…ああッ♡」

お腹からは謎の紋章が浮かび鼓動していた。

「まさか…あれは…夢じゃないっていうの…」

今起きている理解に追いつかず、ただ子宮だけが
白い液体を欲しがっていた…。

謎の淫紋

前回の薬（リアルボーニユド）の力と巫女の魔力が、
超常的な結合反応により現れた愛の印。
交わった精子の持ち主が、近づけば近づくほど
追い求め、子宮が疼くようになる。
意思とは逆の行動をするようになってしまうなど、
効果は未知数。

自分の意思とは逆に、体が勝手に動く…。

イヤッいらないッ
それ早くしまッてッ

拒否をしても淫紋は刺激を増して
強くなつていった…。



これ入れちゃったら子宮壊れちゃう…

んあー♡

んあー♡

んあー♡

んあー♡

んあー♡

んあー♡

ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

だめえ…♡

そんな予感しかしなかった私は
必死に自身の体を止めようとする





